

創設380年! “古典の結城座”の真骨頂!!

国記録選択無形民俗文化財 江戸糸あやつり人形

結城座 古典劇場 『芝浜の革財布』

演出：西川右近(日本舞踊・西川流家元、文部科学大臣表彰)

“落語の神様”三遊亭圓朝・作として知られ、桂三木助、立川談志など数多くの伝説的名演が残る、古典落語の名作「芝浜」で味わう古きよき江戸の姿

心震える夫婦の愛に、忘れかけていた本物の幸福がある

[あらすじ] 魚屋の政五郎は、腕は良いのだが酒に溺れ働かず、呑みだかれて借金ばかり。妻のおたつはそれを案じている。暮れも押し迫ったある早朝、おたつにせかされ渋々仕事に出た政五郎は、芝浜で40両という大金の入った革財布を拾うが、果たして夢かうつつか……?

ドイツ、フランスで
大絶賛!
薫りたつ江戸の
伝統芸能

好評
発売中!

2014年2月8日(土)・9日(日) 各日午後2時開演
武蔵野芸能劇場 (中町1-15-10)

全席指定 一般3500円(アルテ友の会3000円)
小・中学生(要証明)1000円
(アルテ友の会には年会費1000円で入会可)

“音の魔術師”とタイムトラベル ～オルガン音楽300年の旅～

ハンス＝オラ・エリクソン
ニューイヤー・オルガン・リサイタル

バッハへの道、
バッハからの道

ドイツの有力紙「Die Zeit」が“21世紀に残したい111枚”に選出した「メシアン全集」をはじめ、クラシック専門レーベルBISなどでCDを多数発表し続けている、ヨーロッパ・オルガン界の巨人。

好評
発売中!

[演奏曲]

●J.S.バッハ：
前奏曲とフーガ 口短調 BWV544、
バッサカリア BWV582
●メシアン：
鳥たちの歌(『オルガンの書』より)

2014年1月9日(木) 午後7時開演
武蔵野市民文化会館小ホール (中町3-9-11)

全席指定
1000円
(アルテ友の会
900円)

特報!

昨年行われた第7回武蔵野市国際オルガンコンクールの覇者・福本茉莉さん(=写真中央)が、今年6月にドイツで行われたニュルンベルク国際オルガンコンクールでも優勝しました!



公益財団法人 武蔵野文化事業団

www.musashino-culture.or.jp

●チケットのお申し込み

●チケット取り扱い窓口

☎0422-54-2011

●武蔵野市民文化会館 ●武蔵野芸能劇場 ●武蔵野公会堂 ●武蔵野スイングホール
●吉祥寺シアター ●吉祥寺市政センター ●武蔵野市政センター ●中央市政センター

う の し ん や 宇野信哉展

—よみがえる江戸の情景—

■会期 10月20日(日)まで

宇野信哉は1974年北海道生まれ、デザイン学校卒業、札幌のデザイン事務所で勤務した後独立を目指して上京しました。現在はフリーのイラストレーターとして、時代小説を中心に多くの挿画・装丁画を手がけています。

凛とした武士のたたずまいや、気高さを秘めた花魁の艶姿、江戸の町の賑わい。これらを彩る色彩はすべて、たった7色の水彩絵具から生み出されています。その組み合わせと濃淡に加え、研究に研究を重ねたにじみの技を駆使して築き上げた画風は、多くの歴史小説家に認められるところとなりました。統一感のある落ち着いた色調ながら、考え抜かれた絶妙の配色と、無駄のない洗練された描線により、古風でありながら切れ味の鋭い研ぎ澄まされた画風を生み出しています。小

説の内容を吟味したうえで、その最も印象に残った場面を絵にしていける周到な制作スタイルにより、物語のイメージが的確に描き出され、時にはその精神性さえも漂わせます。思わず手を伸ばしたくなる宇野の装画は多くの小説に採用され、書店の陳列台の中でも、味わい深い画風でひとときわ賞禄を感じさせる存在です。

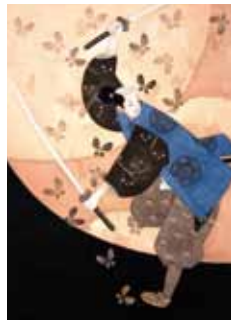
それぞれのストーリーから丁寧に拾い上げたワンシーンで飾る数々の表紙絵原画から、今回は約80点を選び抜きました。また2012年5月から日本経済新聞朝刊で連載された浅田次郎の歴史小説『黒書院の六兵衛』の挿絵も手がけており、その原画全330点も一堂に会します。美術館でのお披露目は初の試み。平成の絵師・宇野信哉の職人技を是非その目でお確かめください。



『吉原手引草』松井今朝子・著 幻冬舎 2007年



『風狂の空 平賀源内が愛した天才絵師』
城野隆・著
祥伝社 2009年



『胡蝶の剣』高妻秀樹・著
学習研究社 2005年



『黒書院の六兵衛』
浅田次郎・著
日本経済新聞社
2012年9月26日朝刊



『口は禍いの門 町医北村宗哲』
佐藤雅美・著
角川書店 2009年

次回展のご案内

もりやまだいどう
森山大道
モノクローム (仮称)

■会期=11月23日(祝・土)～
12月27日(金)
休館日=11月27日(水)、12月25日(水)

「アレ・ブレ・ボケ」と呼ばれる独特の表現で世界的にも極めて評価の高い写真家・森山大道。2008年から2012年に撮影されたシリーズ〈モノクローム〉より、現代の東京に迫った作品約70点をご紹介します。



武蔵野市立吉祥寺美術館

〒180-0004 武蔵野市吉祥寺本町1-8-16 コピス吉祥寺A館7階 ☎0422-22-0385
ホームページ http://www.musashino-culture.or.jp/a_museum/
ツイッター http://twitter.com/kichi_museum

開館時間：午前10時～午後7時30分
休館日：毎月最終水曜日(祝日の場合は翌日)
年末年始、展示替えおよび特別整理期間
入館料：100円(小学生以下・65歳以上・障がい者は無料)
交通案内：JR、京王井の頭線「吉祥寺駅」北口下車 徒歩3分